

りんごの音符



20



エリザベート王妃国際音楽コンクールセミファイナルで演奏する吉江さん—2024年

昨年青森で開かれた「青い海と森の音楽祭」に出演するため、初めて青森に長く滞在しました。オーケストラの皆さんは「すごいメンバー」というのが一番の印象。尊敬する方々の中に入れてもらえることがすごく楽しみでした。青森に着いてみると、地域で音楽祭を盛り上げようという

トラでの参加で実際に地域の方と関わるのが少なかったため、今年は密接な関わりを持てるような活動に協力できたらうれしいです。私が弾いているバイオリンは4歳の頃に始めました。母に連れられて行った子ども向けのオーケストラ演奏会がバイオリンが一番目立っていた

よつという気持ちが大きかった。でも、2024年に世界三大コンクールの一つ「エリザベート王妃国際音楽コンクール」に2度目の挑戦をしたことが大きな転機となりました。今回が最後と覚悟を決めた大きな緊張の中で本番を迎えましたが、会場のお客様が期待していたのは、手か

伝えたいことを表現したいと思えたことで本番を楽しむことができました。バイオリンを続けてこれたのは自分にはこれしかないという思いもありますが、何より恩師や周りの人たちが励まし続けてくれたから。自信を持たせてくれたおかげです。最近ではオーケストラで素晴らしい方々と演奏する機会が増えていて、これからも続けたいと思っています。自分で積極的に勉強する姿勢を

バイオリン 吉江 美桜さん (東京都出身)

「音楽を楽しむ」ために

熱意と温かさを感じました。演奏する側としてもうれしかったです。やはりオーケストラはすごい、精銳ばかり集まるとこの音がするんだと。メンバー一人一人がお客様にいい音楽を届けたい。「自分はこの音が好きだ」という思いがはつきりして、誰も妥協していない。意思のある「強い音」を感じました。今年の音楽祭も出演する予定です。前回はオーケス

て、その時にバイオリンを弾きたいって言ったのがきっかけです。ずっとバイオリンを続けてきました。本番が楽しいと思えるようになったのは実は最近です。それまでは緊張もするし、失敗したけど

下手かではなく「あなたはどうな音楽をするの」ということでした。そのとき「私がこの音楽に対する気持ちを伝えたい」ともつたない」と吹っ切れたんですね。結果は前回と同じセミファイナルでしたが、

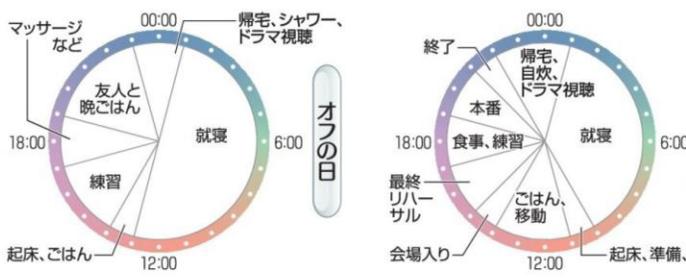
忘れず、引っ張っている存在になりたい。「音楽を楽しむ」という気持ちを持ち続けたいです。(まとめ・秋村有香 ※次回は4月14日に掲載します)



吉江美桜さん

へよしえみお 1996年、東京都出身。4歳からバイオリンを始め、桐朋学園大学ヴァイオリン科を首席で卒業後、同大学ソリストディプロマコースを最優秀の成績で修了。第12回東京音楽コンクール弦楽部門第3位、第84回日本音楽コ

ンクール第3位、第6回祭典エンジェルヴァイオリンコンクール第2位、第69回フアラハの春国際音楽コンクール特別賞受賞。2019年、2024年エリザベート王妃国際音楽コンクールセミファイナル



作曲家はこんな人

音楽史において極めて重要な作曲家の一人であるベートーベンは、歴史上の偉大な音楽家を意味する「楽聖」と呼ばれています。ベートーベンの音楽は、それまでの音楽形式(ソナタ形式など)を「器」として例えるなら、その器に主観的な「熱情」を流し込みま

ベートーベン

した。別の言い方をすれば、音楽を通して「個人の意志や苦悩を告白する場」へと音楽の目的が変わりました。また、ベートーベンは貴族に対しても対等、あるいはそれ以上の態度を取りました。これは、フランス革命がもたらした「自由・平等・友愛」の精神

を、ベートーベンが音楽家の立場から体現していたと言われていいます。それまでの音楽が宮廷のサロンという「閉ざされた空間」の娯楽だったのに対し、ベートーベンの楽曲は不特定多数の「公衆」へ向けた「音による演説」と見ることもできます。モーツァルトの音楽が「完成された美の提示」であるのに対し、ベートーベンの音楽は「小さな動機」(例えば、運命の冒頭部のジャジャジャジャ

ン)が、全体へ展開していくようなスケールの壮大な楽曲を多く作曲しました。それまでのハイドンやモーツァルトの音楽は、貴族の食事や会話の邪魔をしない心地よい「BGM」としての側面がありました。しかし、ベートーベンは突然大きな音を入れたり、不協和音をたたきつけるなど、斬新的な楽曲を多く作曲しました。交響曲に合唱を取り入れたり(交響曲第9番)、交響曲で初めてトロンボーンを用いる

(交響曲第5番)など、斬新的なアイデアで音楽に革命を起こしました。最後に、ベートーベンが晩年「耳が聞こえなくなった」という事実は、多くの方が知っていることと思います。音楽家として致命的な逆境を、音楽の力で克服したのです。だからこそ、ベートーベンの音楽を聴くと、現代の私たちが「明日からまた頑張ろう」という勇気をもらえるのかもしれない。(興吹奏楽連盟監修)

2026年10月31日~11月8日に第2回「青い海と森の音楽祭」が開かれます